

高知県長期漁海況予報

平成22年上半期(1～6月)の漁況・海況の予想

平成22年1月発行 高知県水産試験場

このたび、平成22年1月から6月を予測期間とした「平成21年度第2回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

予報の概要

海況

黒潮：黒潮は、都井岬沖では1月に小蛇行が形成され、5月まで離岸傾向となり、足摺岬沖～潮岬沖では1～4月は小規模な離接岸を繰り返す。5～6月には都井岬沖の小蛇行の東進に伴い、足摺岬沖～潮岬沖で離岸する。

沿岸水温：「平年並み」～「高め」で推移する。

漁況

マイワシ： 前年を下回る

ウルメイワシ： 前年並みから上回る

マアジ： 前年を下回る

サバ類： 前年並み

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海 況

【海況の経過（平成21年8月～12月）】

1. 黒潮

足摺沖では、8月上旬まで前月中旬頃からの「接岸」傾向が継続していましたが、同月中旬から「やや離岸」し、同月下旬に一時的に「接岸」しました。その後、10月下旬に「かなり離岸」したほかは概ね「接岸」から「やや離岸」傾向が続いています。

室戸岬では、前月に続いて8月も「接岸」傾向でありましたが、9月に入って「やや離岸」から「かなり離岸」となりました。10月中旬からは「接岸」傾向に転じ、11月末より「やや離岸」傾向となっています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ接岸～やや離岸で推移しました。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）

階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25 、 <45
かなり離岸	45 、 <65
著しく離岸	65

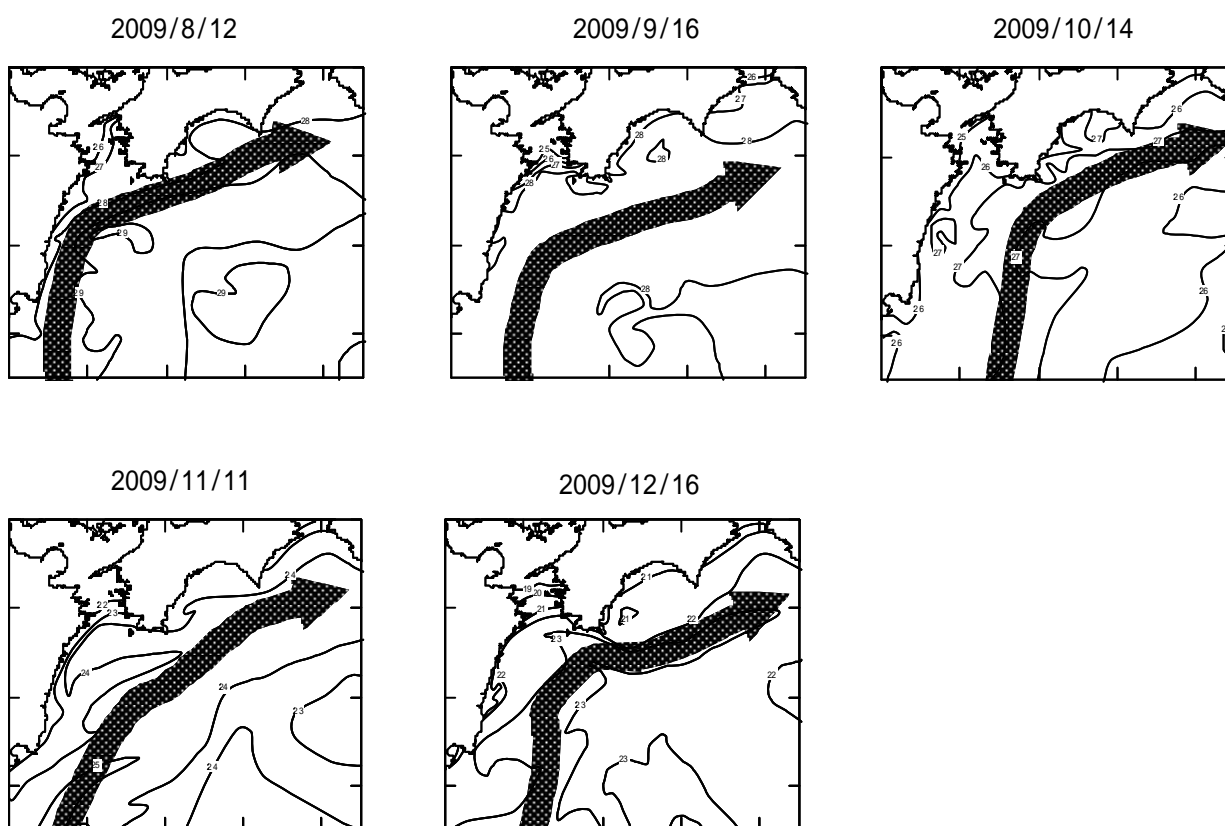


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

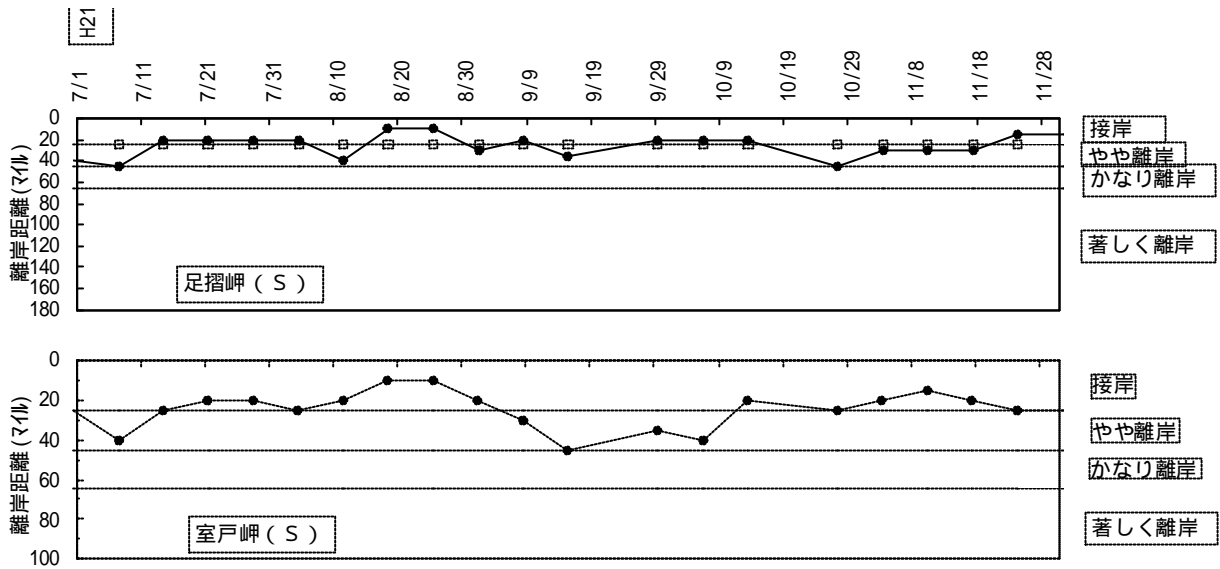


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

2. 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温は、表層で「やや高め」、中層で「平年並み」、下層で「やや低め」でした。8月は200m層において「やや低め」、その他の層で「平年並み」でした。9月は50m層で「著しく高め」であったほか、0m層及び100m層において「やや高め」、200m層は「やや低め」でした。10月は0m層で「やや高め」、50m層及び100m層で「平年並み」、200m層で「かなり低め」でした。11月は0m層で「やや高め」であったほかは「平年並み」でした。

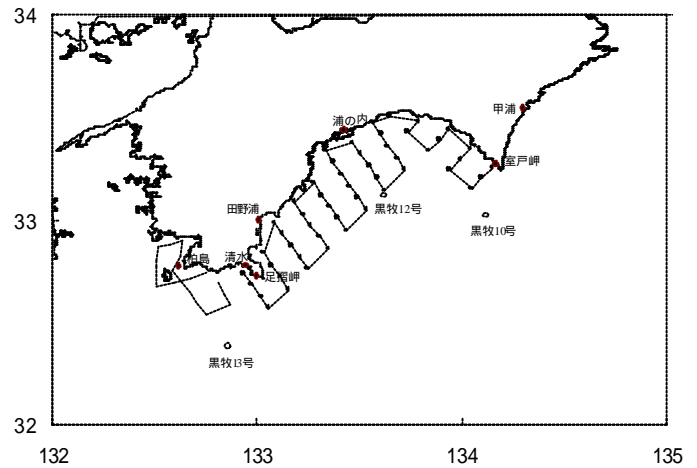


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成21年7月	--	--	-	---
平成21年8月	-+	-+	-+	-
平成21年9月	+	+++	+	-
平成21年10月	+	-+	-+	--
平成21年11月	+	+-	-+	+-

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+ -	平年並(+基調)	0.0~0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
- +	平年並(-基調)	0.0~-0.6

3 . 特異現象

海況

- ・沿岸定線観測において、7月の200m層の水温が過去最低の低水温を記録、また、9月の50m層の水温が過去4番目の高水温を記録した(1975年以降、欠測年あり)。
- ・秋季に県東部の田野、安田、羽根の各大型定置で渦を巻くほど潮(下がり潮)が速く、網入れができない等の情報が寄せられた。

漁況

- ・佐喜浜の大型定置でメジロ8,000本(8月末の1日のみの漁獲)。8月上旬にはブリ銘柄が数百本単位で2日間入網。
- ・10月に宿毛の中型まき網でウルメイワシ好漁(平年比754%)
- ・11月末に県東部の椎名、三津、高岡の大型定置に傘径40cm程度の大型クラゲが少数ながら入網した。

【今後の見通し(平成21年1~6月)】

1. 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、期間を通してN型流路で推移し、4~5月に一時的にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：黒潮は、都井岬沖では1月に小蛇行が形成され、5月まで離岸傾向となり、足摺沖~潮岬沖では1~4月は小規模な離接岸を繰り返す見込みです。また、5~6月には都井岬沖の小蛇行の東進に伴い、足摺岬沖~潮岬沖で離岸する見込みです。

(根拠)

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

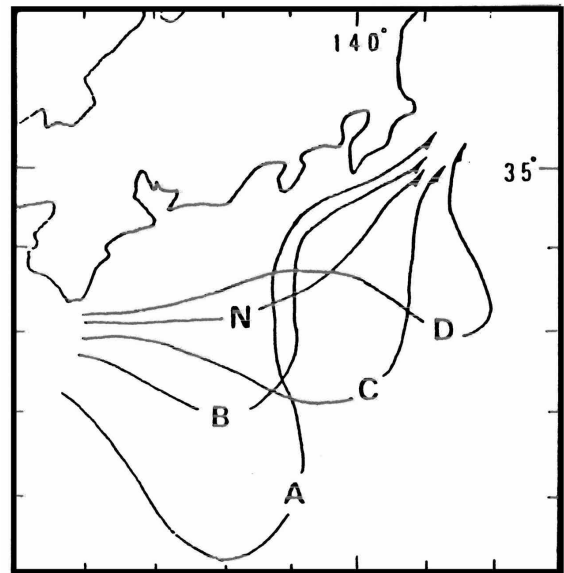


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2 . 沿岸の水溫

「平年並み」から「高め」で推移する見込みです。

(根拠)

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」(11月25日発表、予報期間12~2月)によると、期間中の平均気温は「高い」か「平年並み」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

Ⅰ サバ類（ゴマサバ及びマサバ）

【漁況経過（平成21年8～11月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は837.6トン（以下、漁獲量は期間中の合計を示します）で、前年（871.4トン）を12%下回り、平年（809.6トン 以下、平年とは平成10年から平成19年の10年間の平均値を示します）並みでした。まき網漁獲物の体長測定結果によると、魚種はゴマサバで、0才魚（平成21年生まれ）が主体でした。
- (2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は14.0トンで、前年（53.0トン）平年（63.1トン）を下回りました。漁獲物の体長測定並びに県東部室戸地区の2漁場（椎名、高岡）の定置網入網調査等の結果によると、主体はゴマサバでした。
- (3) 釣（立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計）による漁獲量は321.4トンで、前年（232.9トン）を上回り、平年（466.3トン）を31.1%下回りました。土佐清水を主とする魚体測定の結果は、漁獲の大半はゴマサバで、前年同様3才魚（平成18年生まれ）以上のものが大半を占めました。

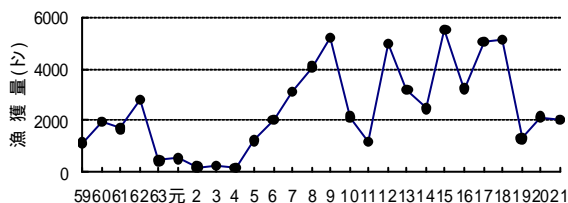


図 サバ類漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

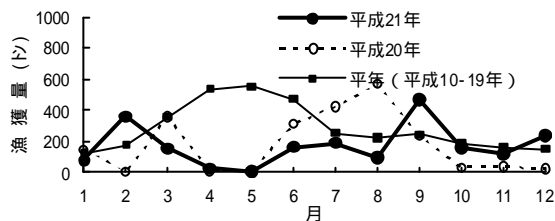


図 サバ類月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

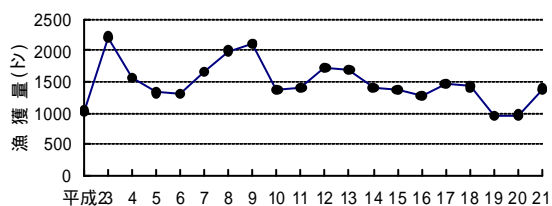


図 サバ類漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

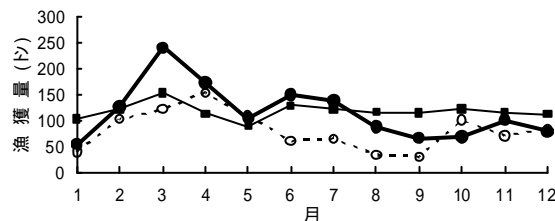


図 サバ類月別漁獲量の推移（清水・加領郷・室戸・甲浦：立縄等釣り）

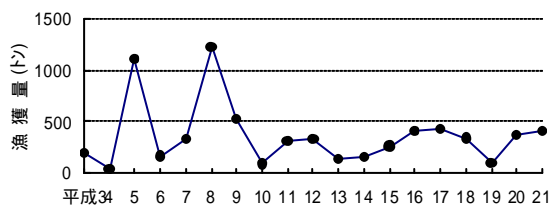


図 サバ類漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

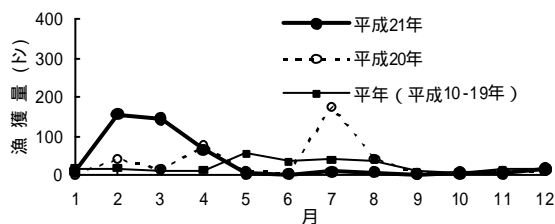


図 サバ類月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県:日向灘のまき網による8~11月の総漁獲量は、ゴマサバ主体に3,307トンで、前年比48%、
平年比137%でした。

愛媛県:豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、8~11月の総漁獲量は1,827ト
ンで前年比92%、平年比140%でした。

和歌山県:紀伊水道外域の2そうまき網による7~11月の総漁獲量はゴマサバ主体に1,759トンで、
前年比77%、平年比80%でした。

【漁況予測(平成22年1~6月)】

(1)漁獲対象:1才魚(平成21年生まれ)、2才魚(平成20年生まれ)、3才魚(平成19年生まれ)

(2)来遊水準:

- ・ゴマサバ:1才魚は前年を上回り、2才魚は前年を下回ります。3才魚以上を含めた全体として
は、前年並みと考えられます。
- ・マサバ:1才魚の来遊量は前年を上回り、2才魚は前年を下回るものの、依然、低水準で推移す
る見込みです。

(参考)前年(平成21年)1~6月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網:775.5トン

定置網(窪津・椎名合計):376.0トン

釣(立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦4水揚地合計):845.9トン

説明:

ゴマサバ:ゴマサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「高位」、動向は「減少」と評価されて
います。近年の生まれ年ごとの水準は、2、4、5才魚(平成20、18、17年生まれ)が低く、
1、3、6才(平成21、19、16年生まれ)が高いと考えられています。平成21年8~11月の漁
獲は概ね前年並、平年を下回りましたが、1才魚の本格的な来遊は今後と推定されることから、前
年並の漁獲が見込まれると思われます。

マサバ:マサバ太平洋系群の平成21年の資源の水準は「低位」、動向は「横ばい」と評価されて
います。全国的な調査の結果から、主に1才魚の期間中の本県への来遊量は前年を上回るものと思
えられますが、マサバ全体としての来遊量は、依然、低水準に推移するものと考えられます。

II マアジ

【漁況経過（平成21年8～11月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は247.6トンで、前年（503.0トン）、平年（472.6トン）を下回りました。銘柄別では、150g以上の「アジ」が41.1トンで、前年（52.4トン）、平年（119.0トン）を下回りました。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は206.5トンで、前年（450.7トン）、平年（353.6トン）を下回りました。漁獲物の体長測定結果等によると、7月は1才魚（平成20年生まれ）主体、8月以降は0才魚（平成21年生まれ）主体に1才魚（平成20年生まれ）も漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲量は26.6トンで、前年（265.4トン）、平年（85.7トン）を下回りました。

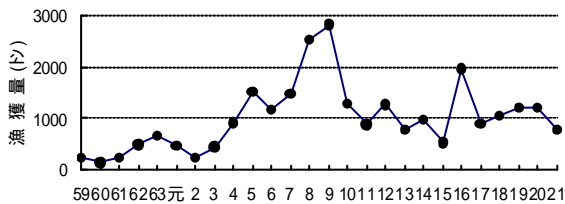


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

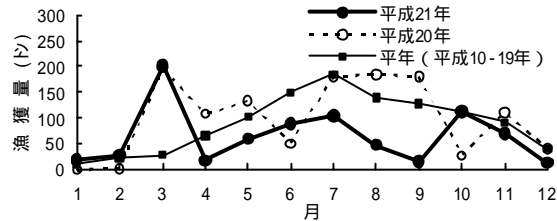


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

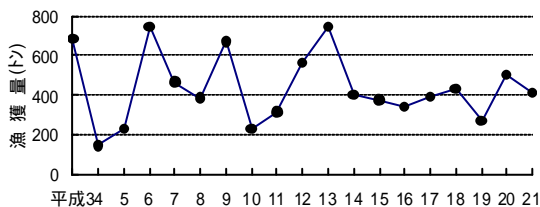


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

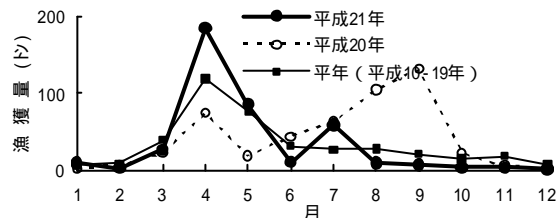


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は349トンで、前年比208%、平年比27%と平成20年に続いて不漁でした。

愛媛県：豊後水道では中・南部海域を主体に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,001トンで、前年比63%、平年比68%でした。

和歌山県：紀伊水道外域2そうまき網による7～11月の漁獲量は、909.2トンで、前年比155%、平年比65%でした。

【漁況予測（平成 22 年 1～6 月）】

- (1) 漁獲対象：0 才魚（平成 22 年生まれ）、1 才魚（平成 21 年生まれ）主体。
- (2) 来遊水準：宿毛湾、土佐湾以東ともに前年を下回ると考えられます。

（参考）前年（平成 21 年）1～6 月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：417.6 トン

定置網（窪津・椎名合計）：323.0 トン

説明：

宿毛湾、土佐湾ともに、今期の主体となる 1 才魚（平成 21 年生まれ）の来遊水準は低いと考えられます。予測期間の後半には、0 才魚（平成 22 年生まれ）も漁獲対象になりますが、その水準は現時点では分かりません。周辺各県の漁況が低調であることも考慮すると、前年を下回る来遊になると考えられます。

III マイワシ

【漁況経過（平成 21 年 8～11 月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 0 トンで、前年（1,145.6 トン）、平年（582.9 トン）を大きく下回りました。
- (2) 定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による漁獲量は 1.8 トンで、前年（10.3 トン）、平年（42.5 トン）を大きく下回りました。

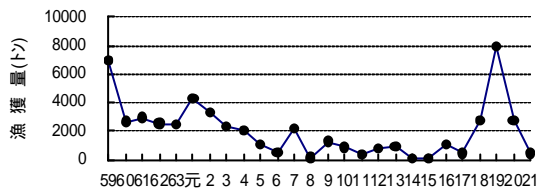


図1 マイワシ漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

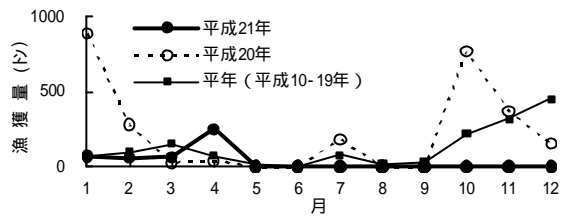


図2 マイワシ月別漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

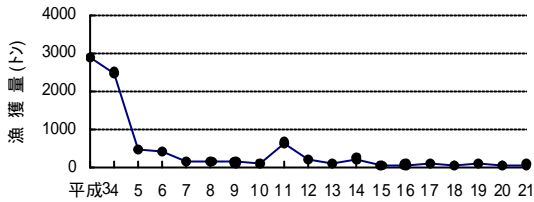


図3 マイワシ漁獲量の推移 (定津・椎名：大型定置網)

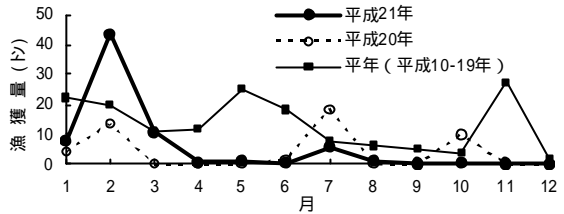


図4 マイワシ月別漁獲量の推移 (定津・椎名：大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 8～11 月における総漁獲量は 21 トンで、0 トンであった前年を上回ったものの前年比 9% でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では中部に若干の漁がみられ、8～11 月における総漁獲量は 0.2 トンで前年比 14%、前年比 0% でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の 1 そうまき網による 8～11 月の総漁獲量は 19.9 トンで、前年比 130%、前年比 12% でした。

【漁況予測 (平成 22 年 1～6 月)】

- (1) 漁獲対象：1 才魚 (平成 21 年生まれ) 主体で、予測期間の後半には 0 才魚 (平成 22 年生まれ) も漁獲されます。
- (2) 来遊水準：前年を下回ると考えられます。

(参考) 前年 (平成 21 年) 1～6 月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：446.9 トン

定置網 (定津・加領郷・椎名合計)：64.0 トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源量は依然低水準で推移しています。本県も含めた西日本各地では、今期の漁獲主体となる 1 才魚 (平成 21 年生まれ) の来遊水準がきわめて低く、前年を下回ると考えられます。予測期間の後半には 0 才魚 (平成 22 年生まれ) も来遊しますが、その水準は現時点で

は分かりません。これらのことから、前年を下回る来遊と考えられます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過（平成21年8～11月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は165.4トンで、前年（4.5トン）、平年（139.8トン）を上回りました。銘柄別では幼魚「ドロ」が54.2トンで、前年（4.5トン）、平年（19.2トン）を上回りました。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は111.2トンで、前年（0.0トン）を上回り平年（120.6トン）並みでした。

(2) 定置網（窪津・椎名2水揚地合計）による漁獲は9.3トンで、前年（10.1トン）並みで平年（1.4トン）を上回りました。

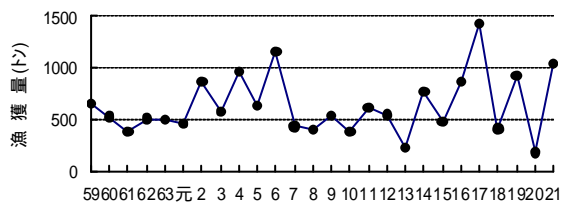


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

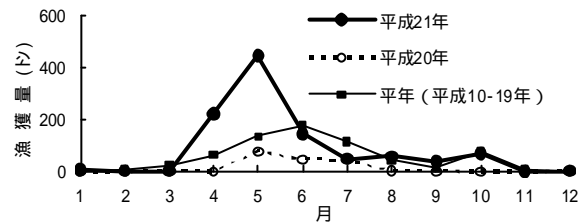


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

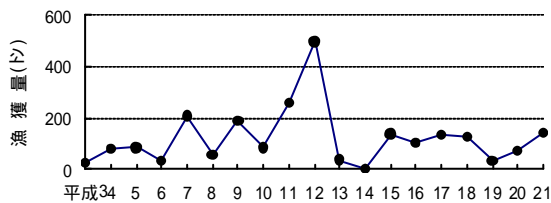


図 カタクチイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

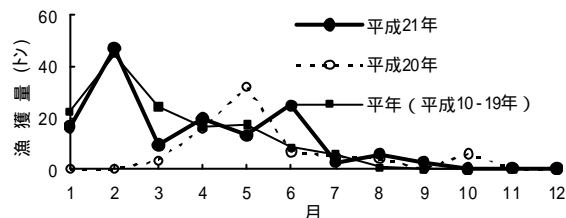


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による8～11月の総漁獲量は3,439トンで、前年比7,025%、平年比1,028%でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、8～11月の総漁獲量は1,641トンで前年比490%、平年比207%でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測（平成22年1～6月）】

カタクチイワシ太平洋系群の資源水準は中位、動向は減少傾向にあると考えられます。高知県海域では、下半期に主要な漁獲対象にならないため、県下の漁況経過から動向を判断することが出来ません。

V ウルメイワシ

【漁況経過（平成21年8～11月）】

1 高知県

- (1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は1,629.4トンで、前年(762.1トン)、平年(407.0トン)を上回りました。漁獲は10月に多く、体長測定から0才魚(平成21年生まれ)を主体に漁獲していたと考えられます。
- (2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は14.7トンで、前年(40.7トン)、平年(52.2トン)を下回りました。
- (3) 高知県漁協宇佐統括支所の多鉤釣漁(土佐湾中央部)による漁獲量は6.3トンで前年(2.1トン)を上回り、平年(16.4トン)を下回りました。

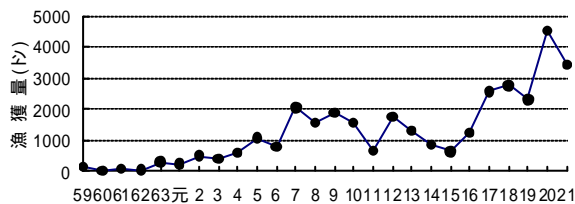


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

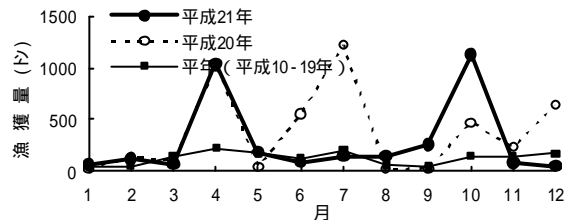


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

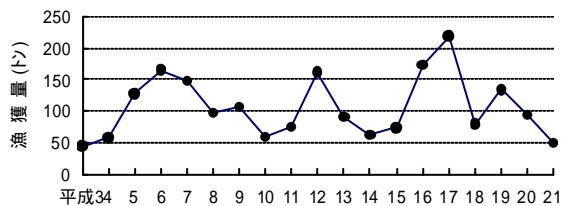


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

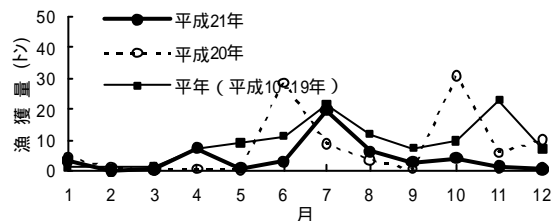


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

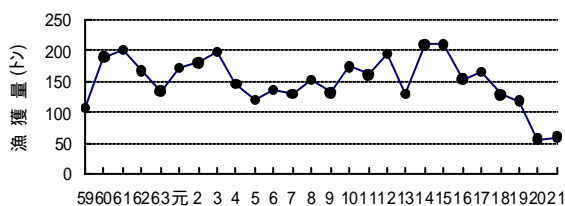


図 ウルメイワシ漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鉤釣)

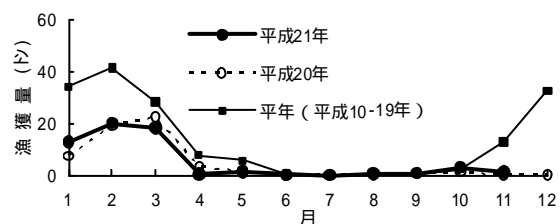


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移(宇佐:土佐湾中央部 多鉤釣)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 8～11 月の総漁獲量は 2,957 トンで、前年同期比 109%、平年比 79% でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による 8～11 月の総漁獲量は 1,920 トンで、前年比 375%、平年比 397% でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における 1 そうまき網は、8～11 月の総漁獲量が 33.2 トンで、前年比 603%、平年比 28% でした。

【漁況予測（平成 22 年 1～6 月）】

(1) 漁獲対象：1 才魚（平成 21 年生まれ）主体に、期の後半には 0 才魚（平成 22 年生まれ）も漁獲されます。

(2) 来遊水準：前年並から上回ると考えられます。

（参考）前年（平成 21 年）1～6 月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：1,586.8 トン

定置網（窪津・椎名合計）：15.4 トン

多鈎釣漁（宇佐漁協）：53.9 トン

説明：

ウルメイワシの資源水準の指標となる産卵量は、土佐湾を中心として高水準にあり、資源状態は良いと判断できます。近隣県も含めた平成 21 年下半期の漁況経過から、今期の主体となる 1 才魚（平成 21 年生まれ）の来遊状況は良いと考えられます。これらのことから、好漁であった前年並みから前年を上回る来遊と考えられます。

VI シラス

【漁況経過（平成 21 年 8～11 月）】

1 高知県

機船船曳網（安芸地区 4 水揚地・春野町・錦浦・田野浦 7 水揚地合計）による漁獲量は 130.8 トンで、前年（49.7 トン）を上回り、平年（126.9 トン）並みでした。魚種組成はカタクチイワ

シが主体でした。

2 周辺各県の経過

宮崎県：8～11月の総漁獲量は388トンで、前年比28%、平年比37%でした。

大分県：佐伯湾における8～11月の漁獲量は14トンで、前年比23%、平年比11%でした。

徳島県：紀伊水道内における8～11月の漁獲量は407トンで、前年比63%でした。

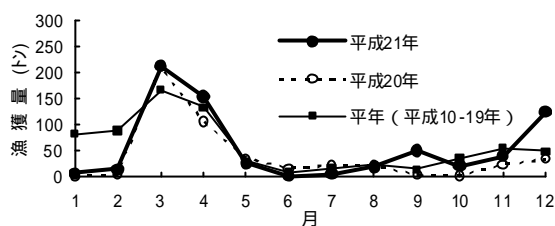
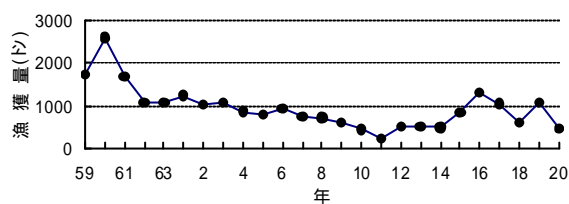


図 シラス漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協) 図 シラス月別漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

【漁況予測(平成22年1～6月)】

シラス漁況は不確実性が高く、特に3月以降の漁況を現時点で判断することは難しいことから、予測が困難です。